JMS NOTES

「人と医療のあいだに・・・」

第53期 事業のご報告

2017年（平成29年）4月1日～2018年（平成30年）3月31日

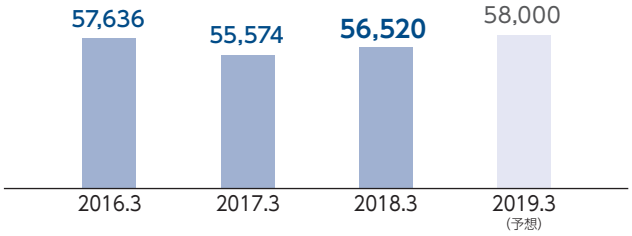
JMS

証券コード 7702

連結財務ハイライト

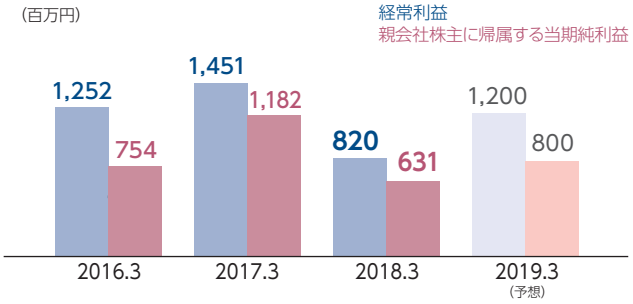
売上高 565億20百万円

(百万円)



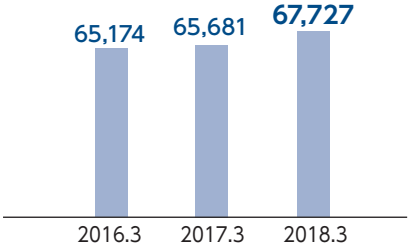
経常利益 8億20百万円
親会社株主に帰属する当期純利益 6億31百万円

(百万円)



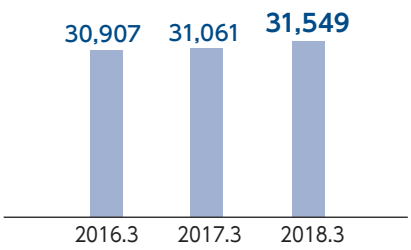
総資産 677億27百万円

(百万円)



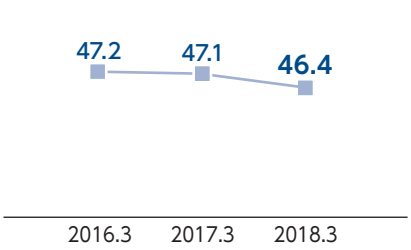
純資産 315億49百万円

(百万円)



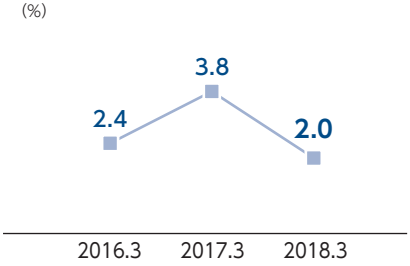
自己資本比率 46.4%

(%)



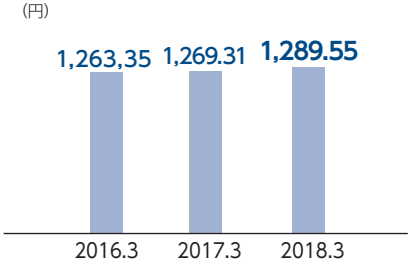
自己資本当期純利益率〈ROE〉 2.0%

(%)



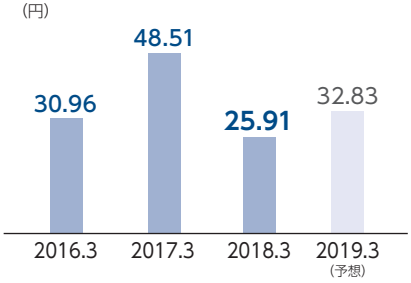
1株当たり純資産※ 1,289円55銭

(円)



1株当たり当期純利益※ 25円91銭

(円)



※当社は、2017年10月1日付で普通株式2株につき1株の割合で株式併合を行っております。1株当たり純資産および1株当たり当期純利益は、2016年3月期の期首に当該株式併合が行われたと仮定し算定しております。

【見通しに関する注意事項】上記予想は、現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があることをご承知おきください。

ごあいさつ

代表取締役社長
奥窪 宏章

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

ここに、当社第53期(2017年4月1日から2018年3月31日まで)のJMS NOTESをお届けいたしますので、ご高覧いただきますようお願い申し上げます。

当社グループの業績は、国内においては、抗がん剤調製・投与クローズドシステム「ネオシールド」の販売が拡大したものの、外科治療関連製品の販売が減少しました。海外においては、成分献血用回路や個人用血液透析装置の販売が増加しました。

この結果、売上高は、前連結会計年度に比べ9億45百万円増加の565億20百万円(前連結会計年度比1.7%増)となりました。

利益につきましては、労務費の増加に加え、販売費や研究開発費の増加により、営業利益は5億73百万円(同48.1%減)となりました。また、持分法による投資利益の計上の一方で為替差損が増加したため、経常利益は8億20百万円(同43.5%減)となり、法人税等を調整した結果、親会社株主に帰属する当期純利益は6億31百万円(同46.6%減)となりました。

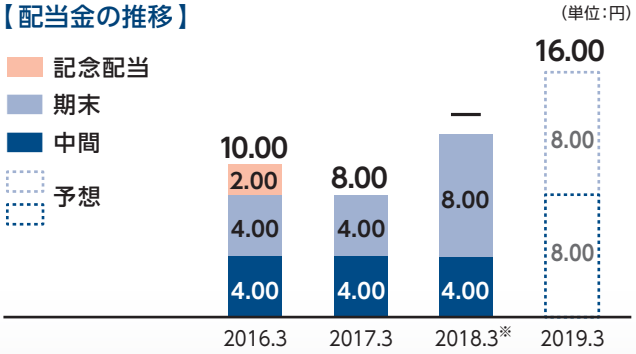
期末配当金につきましては、利益配分に関する基本方針に基づき、1株につき8円とさせていただきます。なお、当社は2017年10月1日付で普通株式2株を1株とする株式併合を行っております。当期は中間配当金として1株につき4円お支払いしておりますので、これを株式併合後に換算いたしますと1株につき8円となり、1株当たりの年間配当金は16円に相当いたします。

当社は、引き続き中期経営計画《GAIN2020》に掲げる取り組みを着実に進めるとともに、ビジネスユニットによる顧客起点での戦略展開をこれまで以上にスピーディに実践し、患者さんと医療従事者の方々のQOL(クオリティ・オブ・ライフ)の向上を目指してまいります。

株主の皆様には、今後とも格別のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2018年6月

【配当金の推移】



※当社は2017年10月1日付で普通株式2株を1株とする株式併合を行っております。2018年3月期の期末配当金は、株式併合後の金額を記載しており、年間配当金は単純に合算できないため「—」と記載しております。2018年3月期の中間配当金を株式併合後に換算した場合、年間配当金は16円に相当いたします。

セグメント情報 連結

■ 所在地別

(注) セグメント利益は、経常利益ベースの数値です。

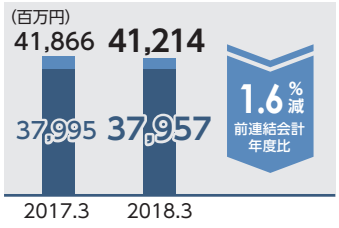
日本

売上高

412億14百万円

【 外部顧客への売上高 379億57百万円 】

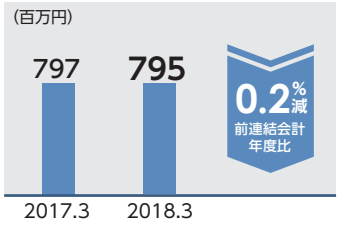
個人用血液透析装置や抗がん剤調製・投与クローズドシステム「ネオシールド」の販売が拡大したものの、セグメント間の内部売上高が減少しました。



セグメント利益

7億95百万円

減収の影響や研究開発費の増加により利益が減少しました。



シンガポール

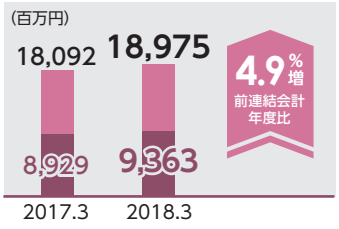
売上高

189億75百万円

【 外部顧客への売上高 93億63百万円 】

北米向けの成分献血用回路の販売が増加しました。

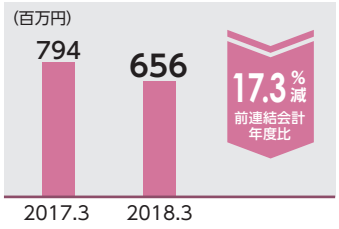
*インドネシアの現地法人を含む



セグメント利益

6億56百万円

労務費の増加に加え、為替が不利に作用したことにより利益が減少しました。



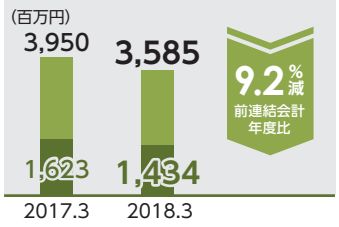
中国

売上高

35億85百万円

【 外部顧客への売上高14億34百万円 】

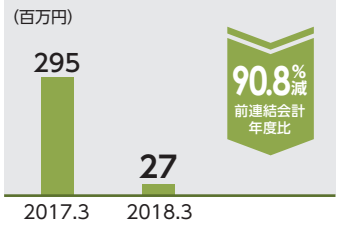
中国国内向けのダイアライザー(人工腎臓)の販売が減少しました。



セグメント利益

27百万円

減収の影響や販売費の増加により利益が減少しました。

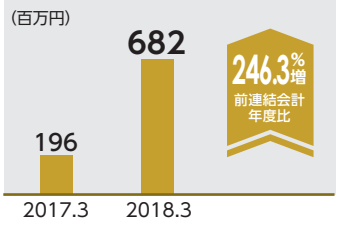


フィリピン

売上高

6億82百万円

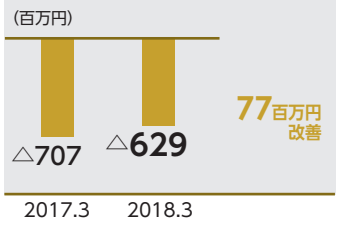
日本向けの輸液セットの販売が増加しました。



セグメント利益

△6億29百万円

増収効果により損益が改善しました。



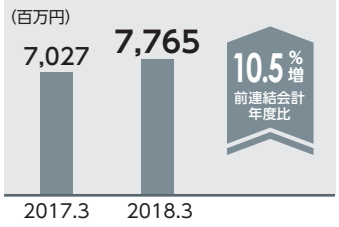
その他

売上高

77億65百万円

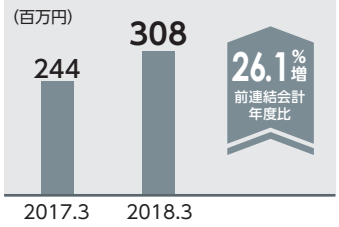
【 外部顧客への売上高 77億65百万円 】

*国内子会社及びドイツ、アメリカ、韓国の現地法人を含む



セグメント利益

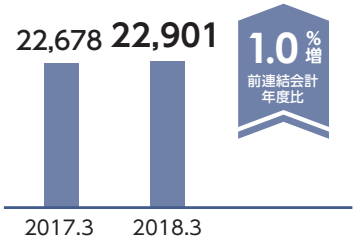
3億8百万円



■システム別

輸液・栄養群

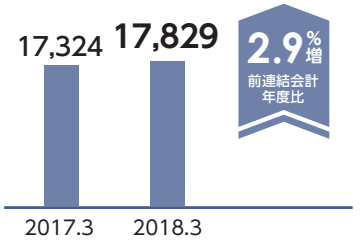
売上高 **229億1百万円**



日本国内の抗がん剤調製・投与クローズドシステム「ネオシールド」の販売が拡大しました。

透析群

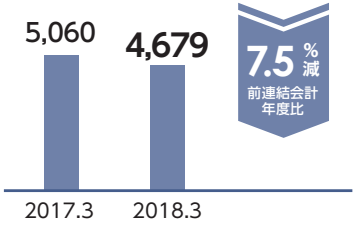
売上高 **178億29百万円**



アジア向けの個人用血液透析装置や中国向けの血液透析装置の販売が増加しました。

外科治療群

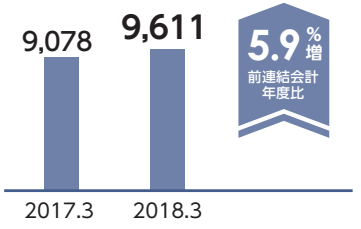
売上高 **46億79百万円**



人工心肺装置の販売が減少しました。

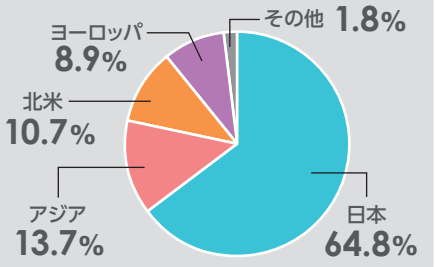
血液・細胞群

売上高 **96億11百万円**

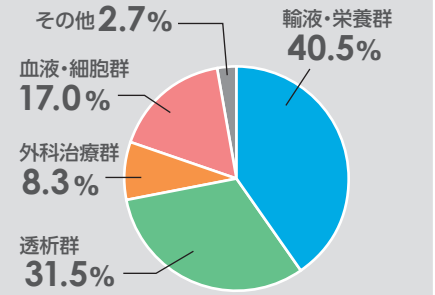


日本国内の白血球除去フィルター付血液バッグや北米向けの成分献血用回路の販売が増加しました。

■地域別売上高構成比



■システム別売上高構成比



輸液・栄養群
輸液セット、注射針、注射筒、抗がん剤調製・投与クローズドシステム、経腸栄養関連製品、輸液ポンプ、医療用手袋、不織布製品、他

透析群
血液透析装置、ダイアライザー、人工腎臓用血液回路、AVF針、プレフィルドシリンジ製剤、腹膜透析液、他

外科治療群
膜型人工肺、人工心肺装置、人工心肺回路、ペースメーカー、血管造影用カテーテル、AED(自動体外式除細動器)、他

血液・細胞群
血液バッグ、輸血セット、成分献血用回路、血液成分分離バッグ、細胞保存搬送容器、他

【記載方法の変更について】
◎当期より、所在地別の報告セグメントの区分及び名称の記載方法を変更しています。従来「その他」に含まれていた「フィリピン」は重要性が増したため、報告セグメントとして記載しています。
従来の「ドイツ」及び「アメリカ」は「その他」に含め、「東南アジア」は「シンガポール」に名称変更しています。前期のセグメント情報は、変更後の区分及び名称により作成したものを記載しています。
◎当期より、組織再編に伴いシステム別の記載区分を変更しています。前期のシステム別情報は、変更後の区分及び名称により記載しています。

当社は2017年4月より、全社の組織構成を市場特性にあわせたビジネスユニット制度（以下BU）に変革しました。
組織再編から約一年を経過し、それぞれのBUでの戦略と活動を、今回と次回の2回シリーズでご報告します。

医療事故・院内感染を防止する
輸液麻酔・栄養関連製品を提供する
ホスピタルプロダクツBU

取締役
ホスピタルプロダクツ ビジネスユニット
統括部長 兼 研究開発本部 本部長
佐藤 雅文

執行役員
ホスピタルプロダクツ ビジネスユニット
推進部長
門廣 秀之

■事業領域・環境（輸液麻酔・栄養）

当BUで扱う製品は、治療や回復期に使用する医療機器・消耗品全般にわたります。医療環境が変化する中、当社はお客さま目線に重きを置いた製品開発・改良を行い、医療現場へ提供することで、患者さんや医療従事者の方々から高い評価をいただいています。

活動の対象となる市場は、高度急性期、急性期、回復期、慢性期、在宅など幅広く、今後は医療機能ごとの要求がより細かく高度化する一方で、医療材料に対するコスト要求は強まると予想されます。また、医師や看護師などの医療スタッフの不足も課題となっています。

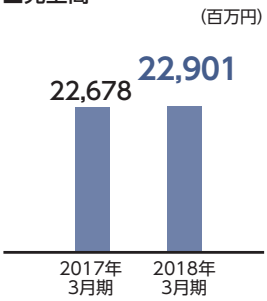
輸液麻酔

閉鎖式輸液セット、誤穿刺防止機構付翼状針、静脈留置針をはじめとする感染・針刺し事故防止製品や、近年、急速に普及が進んでいる抗がん剤の安全な調製と投与に用いられる曝露防止製品など、安全性・作業性・省力化に配慮した高付加価値製品を拡充するとともに、これら関連製品と輸液ポンプなどME機器を組み合わせたトータルシステムを提案、提供しています。

栄養

誤接続・誤注入防止機構を備えた栄養セット、栄養剤用バッグ、注入器などの投与製品をはじめ、小児から成人までの幅広いニーズに応じた製品設計とオリジナル技術をいかした製品を提供しています。更に、「口から食べる」を栄養療法の原点として捉え、機能回復やトレーニングに用いる摂食嚥下関連製品も提供しています。

■売上高



【事業戦略】

製品力とラインアップを強化し、安定成長と収益確保の基盤を築きます。

輸液麻酔領域

院内感染制御、注入制御、医療事故対策の課題を解決する製品を核とした、トータルシステムでの価値提供を行い、No.1の顧客信頼とシェア獲得を実現します。

栄養領域

安全性・利便性の高い製品を提供し、栄養管理からリハビリ・回復までの栄養療法のトータルコーディネーターとなります。

■重点的な取り組み

グローバルスタンダード化の推進、国の医療費抑制策などの影響もあり、市場環境は厳しさを増す傾向にあります。この状況に対応していくためには、コスト競争力を高め、当社の独自性や強みをさらに磨いていくことが大切です。

当BUは、安全性・利便性・作業性の高い製品をシステムで提案、提供するという基本方針のもと、戦略的な事業活動を展開しています。

輸液麻酔

安全性と作業性を同時に高めることのできる製品のシステム提案を重点的に行います。特に、がん治療に関しては、今後も抗がん剤の取扱いにおけるリスク対策が強化されていくことから「ネオシールド®」の改良開発とラインアップ拡充により、市場シェアの拡大を図ります。

また、医療従事者の方々が扱う機器の操作・作業の手間の軽減や自動化というニーズを踏まえ、ユーザビリティを強化した製品の開発と提案も積極的に行っています。

栄養

市場環境の変化を踏まえ、安全性と作業性、利便性を更に追求した製品の投入を進めるほか、「健康寿命」の延伸に貢献する摂食嚥下領域の市場創造と価値の提案を引き続き積極的に行います。

嚥下機能の回復とトレーニングは、今後の製品開発において重要なキーワードと考えています。これからも「口から食べる」を基本に関連製品の改良・開発を強力に推し進めて、栄養療法のトータルコーディネーターを目指し、マーケットリーダーとして幅広い活動を続けていきます。

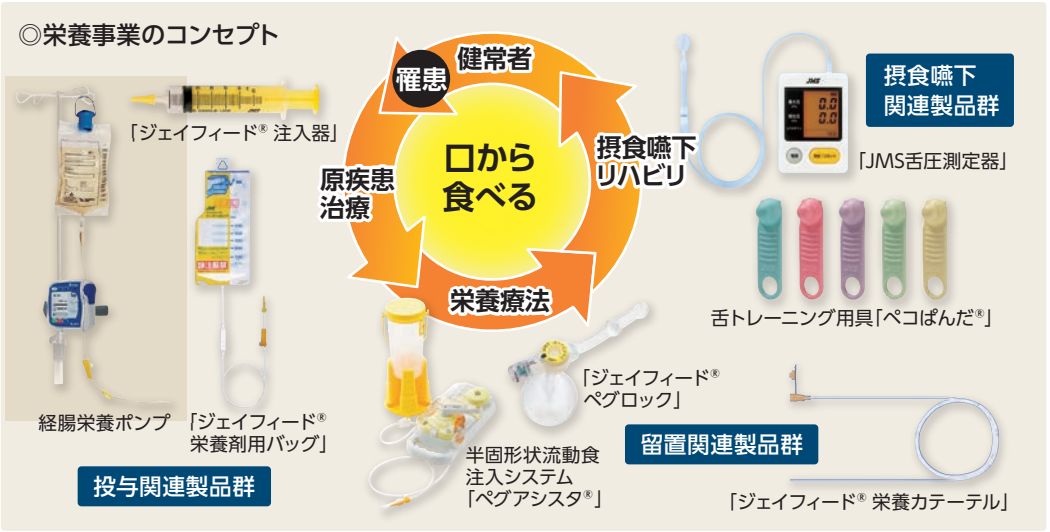
■将来への方向性

当BUの事業領域は、病院機能分化によりその範囲が拡大しており、高度急性期、急性期、回復期、慢性期、在宅の各領域で、新たなニーズや変化が生まれています。当社は、こうした新たな動きをいち早くつかみ、それに対応する技術や製品を他社に先駆け、タイムリーに開発、提案をしていきます。

海外市場においては、JMSグループ各社との連携強化や優れた現地企業とのアライアンスを進めるとともに、既存の高付加価値製品や新製品の投入により市場開拓を行い、グローバル展開を加速しビジネスの拡大を図ります。

抗がん剤調製・投与
クローズドシステム
「ネオシールド®」

◎栄養事業のコンセプト



採血から輸血までの血液事業と再生医療に貢献する製品を提供する

ブラッドマネジメント&セルセラピー BU

■事業領域・環境（血液・細胞）

血液

血液領域の主な事業活動は、国内の献血事業を担う日本赤十字社（以下、日赤）に対する血液バッグの納入です。全血献血用の血液バッグは、副作用の原因となる白血球を取り除く白血球除去フィルターが組み込まれた特殊な仕様のため、日赤に供給できる国内メーカーは、かつては2社しかありませんでした。

当社は、献血事業の継続性の観点から安定的に血液バッグを供給していくために、日赤から3社目のメーカーとして参入を依頼され、2013年より提供を開始しています。価格や需要は安定している反面、最高水準の品質を求められるなど日赤からの要求は極めて高く、その要求にきめ細かく応える対応力が求められています。

取締役
ブラッドマネジメント&セルセラピー ビジネスユニット
統括部長 兼 生産本部 本部長
国富 純

ブラッドマネジメント&セルセラピー
ビジネスユニット
推進部長
鈴木 康二

細胞

細胞領域は、細胞を用いて組織や臓器を治療する再生医療に関わる領域で、既存の治療法では治癒が困難な疾患への実用化が期待されています。再生医療を実用化するためには、細胞を移植する医療現場だけでなく、細胞の培養や保存、搬送などを行う周辺産業の発展が不可欠で、すでにさまざまな業種からの参入も相次いでいます。

再生医療は最先端の医療として世界中のさまざまな大学や研究機関で研究が行われており、iPS細胞の発見などで、いよいよ実用化が近づいてきている段階といえます。これから臨床研究などで成果が出始めると、一気に市場規模が広がることが期待されています。

■売上高

【事業戦略】

新技術の導入により顧客価値を高め、高い成長を目指します。

血液領域

全血採血及び成分採血の両分野の採血から輸血に至る各プロセスで事業展開し、日本の血液事業においてなくてはならない存在になります。

細胞領域

医療関係者との協働開発や医工連携等によって再生医療の各プロセスに必要な製品を開発し、臨床応用への進展に貢献します。

■重点的な取り組み

血液

血液バッグには日赤が定めた厳しい品質基準がありますが、それをクリアするだけでは納入シェアの拡大は望めません。そこで当社は、これまで培った材料開発や加工技術を用いて作業性や品質管理の面から他社との差別化をはかっていきます。

採血後の血液は、赤血球や血小板などの成分ごとに適した温度で保管されますが、血液バッグの素材は低温保存時に破損が生じることがあります。当社は材料開発の強みを活かして低温保存に適応する素材の開発に取り組み、顧客価値を高めることで納入実績につなげる計画です。

細胞

再生医療を行うには、患者さんから細胞を採取し移植するまでに、細胞の培養・保存、さらには搬送というこれらの各プロセスで使用する容器や器具が必要です。衛生面や安全面において高い品質が追及されますが、当社にはすでに実績のある製品や、応用できる技術（概念図参照）が数多くあります。来たるべき実用化時代に先駆け、実証研究を進めている大学や研究機関、スタートアップ企業などと、当社の技術をもとに再生医療を支える製品の協働開発を進めています。

■将来への方向性

当BUでは、現在約100億円の売上規模を、2025年までには150億円までに伸ばしていく計画です。

海外市場に対しては、アジアや中近東、ロシア、東欧圏などを中心に現在約40カ国への製品の提供に加え、グローバル企業とのアライアンスを通じた展開をしていますが、これをさらに拡大するとともに、各国へ高付加価値製品の提案力をさらに増していきたいと考えています。

再生医療に関しては、実用化までもう少し時間を要することも予想されるため、日赤への血液バッグの納入シェアを現在の10%から30%まで伸ばすことに注力しつつ、中期的には全血献血に加え成分献血への参入と海外による売上増加をはかり、将来的には細胞領域での需要を獲得していく予定です。

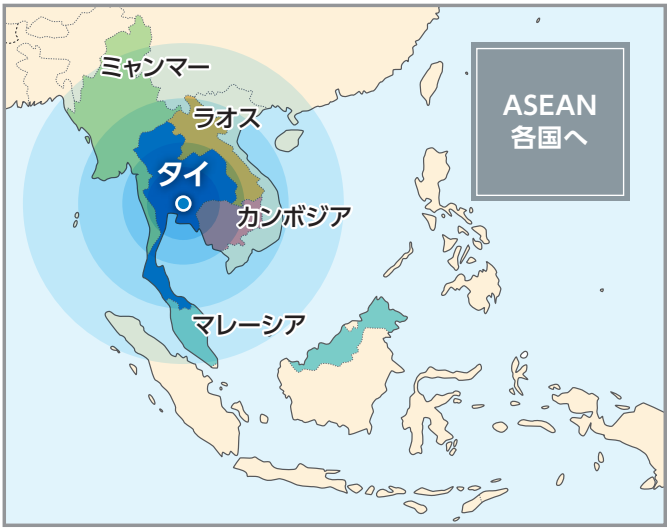
白血球除去フィルター付 血液バッグ

2018年4月、タイに合弁会社を設立。
ASEAN・新興国市場への販売力をさらに強化します。

当社は、中期経営計画《GAIN 2020》の重点戦略の一つとして「グローバル展開の加速」を掲げ、海外展開の更なる加速に取り組んでいます。その一環として、このたびタイの首都バンコク近郊に販売会社「JMS Healthcare (Thailand) Co., Ltd.」(JMSヘルスケア・タイランド)を設立しました。

タイをはじめとするASEAN各国では、医療機器の市場規模が拡大しており、その傾向は今後も続いていくことが予想されています。JMSヘルスケア・タイランドは、伸長著しいASEAN各国に向けて積極的な事業展開を推進し、より販売を拡大していくことを狙いとしています。

JMSヘルスケア・タイランドは、これまで販売代理店として取引のあったタイの医療機器メーカーであるThippayabadin社及びB&J Logistic社との合弁会社です。両社のネットワークを活用しながら、強い販売ルートを構築しASEAN各国での存在感をさらに高めてまいります。



調印式の様子

JMSヘルスケア・タイランドの概要

社　　名	JMS Healthcare (Thailand) Co., Ltd.
設　　立	2018年4月
所 在 地	タイ王国サムットプラカーン県
資 本 金	500万タイバーツ(約1,750万円)
出資比率	JMS 49%、Thippayabadin社 31%、B&J Logistic社 20%
事業内容	医療機器、医療用品、医薬部外品の輸出入及び販売

AVF針(血液透析用針)

人工腎臓用血液回路

国内最軽量※・長時間駆動で安全な搬送をサポートする遠心ポンプ駆動装置「ECmoVA®」を販売開始。※当社調べ

遠心ポンプ駆動装置
「ECmoVA®」

当社はこのたび、体外循環と補助循環の領域で使用可能な遠心ポンプ駆動装置(JMS血液ポンプシステム)「ECmoVA®(エクモバ)」を販売開始いたしました。

遠心ポンプ駆動装置は、心臓の機能を代行する血液ポンプを動かす医療機器で、心臓外科手術の体外循環や心不全の治療のほか、心肺停止患者への救命処置にも使われています。「ECmoVA®」は、上部のモジュールユニットと下部のベースユニットが接合・分離する構造になっており、持ち運べる小型・軽量サイズで長時間駆動が可能なため、病院内外での患者搬送時だけでなく、ドクターカーやドクターヘリでも使用でき、救命率の向上が期待されています。

モジュール
ユニットは
軽くて持ち運びが
容易

平成30年度診療報酬改定情報

「JMS舌圧測定器」を使用した「舌圧検査」の保険適用が拡大されました。

平成30年度診療報酬改定において、当社の「JMS舌圧測定器」に関して、これまでPAP(舌接触補助床)適用患者の舌圧検査に限定されていた保険適用が、口腔機能低下症の診断を目的とした検査へ拡大されました。これにより、「JMS舌圧測定器」は歯科診療の検査で使用される機会がさらに広がると期待されます。

今後は歯科だけではなく、医科領域での保険適用を目指してまいります。

JMS舌圧測定器

財務諸表《連結》

■連結貸借対照表

（単位：百万円）

科　目	前連結会計年度 2017年3月31日現在	当連結会計年度 2018年3月31日現在
《資産の部》		
流動資産 ①	36,279	38,417
現金及び預金	6,270	7,162
受取手形及び売掛金	15,357	16,452
たな卸資産	13,032	13,179
その他	1,619	1,623
固定資産	29,402	29,309
有形固定資産	23,942	23,324
無形固定資産	448	438
投資その他の資産	5,011	5,546
資産合計	65,681	67,727

科　目	前連結会計年度 2017年3月31日現在	当連結会計年度 2018年3月31日現在
《負債の部》		
流動負債	20,784	21,508
固定負債 ②	13,836	14,669
負債合計	34,620	36,177
《純資産の部》		
株主資本	30,803	31,044
その他の包括利益累計額	127	378
非支配株主持分	130	127
純資産合計	31,061	31,549
負債純資産合計	65,681	67,727

■連結株主資本等変動計算書　当連結会計年度（2017年4月1日～2018年3月31日）

（単位：百万円）

	株主資本					その他の包括利益累計額			非支配株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	7,411	10,362	13,313	△282	30,803	439	△312	127	130	31,061
当期変動額										
剰余金の配当			△389		△389					△389
親会社株主に帰属する当期純利益			631		631					631
自己株式の取得				△1	△1					△1
自己株式の処分			△0	0	0					0
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）						112	138	250	△2	248
当期変動額合計	—	—	241	△0	240	112	138	250	△2	488
当期末残高	7,411	10,362	13,554	△283	31,044	551	△173	378	127	31,549

■ 連結損益計算書

(単位：百万円)

科　目	前連結会計年度 2016年4月1日～2017年3月31日	当連結会計年度 2017年4月1日～2018年3月31日
売上高 ……❸	55,574	56,520
売上原価	41,139	42,238
売上総利益	14,435	14,282
販売費及び一般管理費	13,329	13,708
営業利益 ……❹	1,106	573
営業外収益	530	547
営業外費用	185	300
経常利益 ……❺	1,451	820
特別利益	811	21
特別損失	1,163	101
税金等調整前当期純利益	1,100	740
法人税等	△91	111
当期純利益	1,191	629
非支配株主に帰属する当期純利益又は非支配株主に帰属する当期純損失(△)	9	△2
親会社株主に帰属する当期純利益	1,182	631

(注)金額につきましては、百万円未満を切り捨てて記載しております。

■ 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科　目	前連結会計年度 2016年4月1日～2017年3月31日	当連結会計年度 2017年4月1日～2018年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,675	2,666
投資活動によるキャッシュ・フロー	△4,809	△3,203
財務活動によるキャッシュ・フロー ……❻	644	1,420
現金及び現金同等物に係る換算差額	△157	4
現金及び現金同等物の増減額(減少:△)	351	887
現金及び現金同等物の期首残高	5,982	6,333
現金及び現金同等物の期末残高	6,333	7,220

››› POINT解説

❶ **流動資産**〔前連結会計年度末に比べ21億38百万円増加〕
・受取手形及び売掛金が増加しました。

❷ **固定負債**〔前連結会計年度末に比べ8億33百万円増加〕
・リース債務が増加しました。

❸ **売 上 高**〔前連結会計年度に比べ9億45百万円増加〕
・地域別ではアジアと北米、システム別では透析群と血液・細胞群などの販売が増加しました。

❹ **営業利益**〔前連結会計年度に比べ5億32百万円減少〕
・労務費に加え、販売費や研究開発費の増加により減益となりました。

❺ **経常利益**〔前連結会計年度に比べ6億31百万円減少〕
・為替差損が増加し減益となりました。

❻ **財務活動によるキャッシュ・フロー**
〔前連結会計年度に比べ7億76百万円増加〕
・借入金の収支差額によるものです。

会社概要

◉当社の概要

(2018年3月31日現在)

設立	1965年(昭和40年)6月12日
資本金	7,411,014,445円
上場金融商品取引所	東京証券取引所市場第一部 (証券コード:7702)
主要な事業内容	医療機器、医薬品の製造・販売及び輸出並びに輸入
従業員数	1,569人 (グループ総数 6,270人)

◉役員

(2018年6月21日現在)

代表取締役社長	奥窪 宏章	取締役	井口 明彦
常務取締役	粟根 康浩	取締役	池村 和朗
取締役	国富 純	監査役(常勤)	近藤 良夫
取締役	森川 重美	監査役	早稲田 幸雄
取締役	佐藤 雅文	監査役	水戸 晃
取締役	桂 龍司		
取締役	柳田 正吾		

※井口明彦氏、池村和朗氏は、社外取締役であります。
※早稲田幸雄氏、水戸晃氏は、社外監査役であります。

JMS グローバルネットワーク

グローバル展開を推進するために、製造拠点・販売拠点を各地域に設置し、事業活動を行っています。

海外ネットワーク

子会社

❶ 株式会社 韓国メディカル・サプライ《製造・販売》
❷ ジェイ・エム・エス・シンガポールPTE LTD《製造・販売》
❸ 大連ジェイ・エム・エス医療器具 有限公司《製造・販売》
❹ ジェイ・エム・エス・ノース・アメリカ・コーポレーション《販売》
❺ バイオニック・メディツィンテクニックGmbH《販売》
❻ PT. ジェイ・エム・エス・バタム《製造・販売》
❼ ジェイ・エム・エス・ヘルスケア・フィリピン, INC.《製造・販売》
❽ ジェイ・エム・エス・ヘルスケア・タイランド Co., Ltd.《販売》

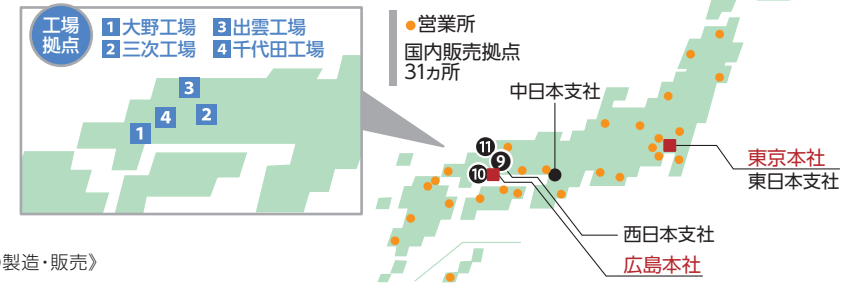
国内ネットワーク

子会社

❾ ジェイ・エム・エス・サービス 株式会社
《医療機器の修理等》
❿ 株式会社 大野《業務請負業》

関連会社

⓫ 株式会社 ジェイ・オー・ファーマ《医薬品の製造・販売》



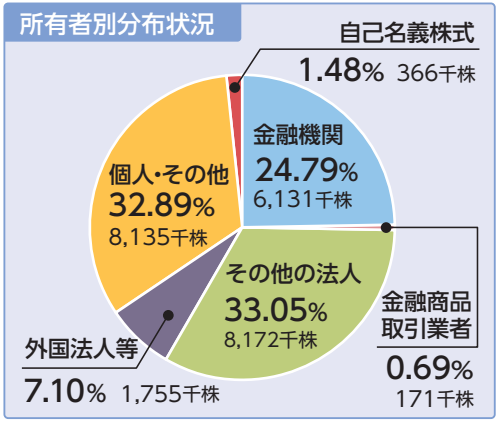
株式概要（2018年3月31日現在）

◇発行可能株式総数 …… 65,000,000株

◇発行済株式総数 …… 24,733,466株
（自己株式366,459株を含む）

◇株主数 …… 4,608名

（注）平成29年6月22日開催の当社第52回定時株主総会の決議により、平成29年10月1日をもって当社普通株式2株を1株とする株式併合を行いました。これにより、発行可能株式総数は65,000,000株となり、発行済株式総数は24,733,466株となっています。

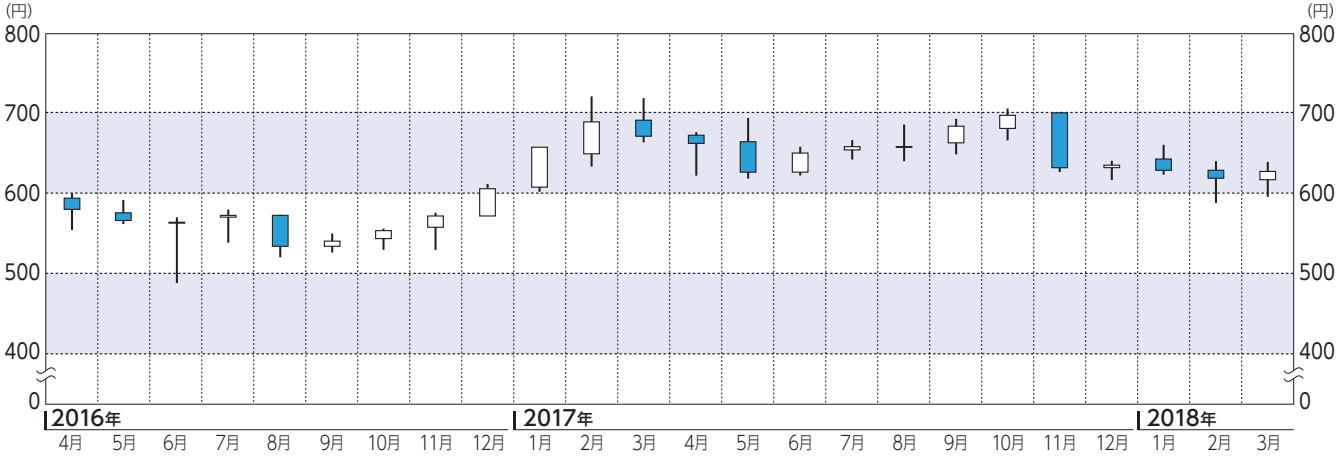


◇大株主の状況（上位10名）

株主名	持株数（千株）	持株比率（%）
株式会社カネカ	2,473	10.15
一般財団法人土谷記念医学振興基金	1,900	7.79
土谷佐枝子	1,008	4.13
社会福祉法人千寿会	1,000	4.10
株式会社広島銀行	895	3.67
第一生命保険株式会社	861	3.53
JMS共栄会	589	2.41
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	580	2.38
大下産業株式会社	571	2.34
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口）	494	2.03

（注）持株比率は、自己株式（366,459株）を控除して計算しております。

◇株価推移※



※株価は株式併合の影響を考慮して換算しています。

株主メモ 証券コード：7702

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日までの1年
基準日	定時株主総会　3月31日 期末配当　3月31日 中間配当　9月30日 その他必要があるときは、あらかじめ公告いたします。
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 Tel.0120-094-777（通話料無料）
上場証券取引所	東京証券取引所市場第一部
公告の方法	電子公告とする。 （http://www.jms.cc/ir/denshi.html） ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行う。

ご注意

1. 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、特別口座の口座管理機関である三菱UFJ信託銀行にお問合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国本支店でもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

JMS WEBサイトのご案内

当社の経営方針から主な製品、研究開発、IR、腹膜透析等の医療情報まで、多彩な情報を掲載しています。ぜひ、ご覧ください。

▶▶▶ http://www.jms.cc/ JMS 検索

株式会社 JMS

広島本社 〒730-8652 広島市中区加古町12番17号
TEL 082-243-5844 FAX 082-243-5997

東京本社 〒140-0013 東京都品川区南大井一丁目13番5号 新南大井ビル
TEL 03-6404-0600 FAX 03-6404-0610

【表紙デザイン】
テーマ「新たな扉を開いていく。」

扉を開き始動する人々をモチーフに構成。
新しい組織に変革したJMSが、ミッションや目標に向かって、チャレンジ精神を持ち続け、これからも推進していく姿勢を表現しています。

UD FONT
見やすいユニバーサルフォントを採用しています。